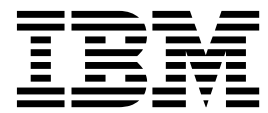


バージョン 10 リリース 1
2017 年 10 月 13 日

IBM Contact Optimization アップグレード・ガイド

The IBM logo, consisting of the letters "IBM" in a bold, black, sans-serif font. Each letter is composed of horizontal stripes, with the "I" having three stripes, the "B" having six stripes, and the "M" having four stripes.

注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、29 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書は、IBM Contact Optimization バージョン 10 リリース 1 モディフィケーション 0、および新しい版で明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： Version 10 Release 1
October 13, 2017
IBM Contact Optimization
Upgrade Guide

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

© Copyright IBM Corporation 2003, 2017.

目次

| | | | |
|---|-----------|---|-----------|
| 第 1 章 アップグレードの概要 | 1 | Contact Optimization のテーブルのマッピング | 15 |
| アップグレード・ロードマップ | 1 | Contact Optimization システム・テーブル・マッ ピングのリファレンス | 16 |
| インストーラーの動作 | 2 | Contact Optimization コンタクト履歴テーブル・ マッピングのリファレンス | 17 |
| インストールのモード | 2 | SSL 環境に必要な追加の構成 | 17 |
| サンプル応答ファイル | 3 | Contact Optimization のインストールの検証 | 18 |
| アップグレード・インストールが失敗した場合のレジ ストリー・ファイルの修正 | 3 | 第 5 章 Contact Optimization のアンイ ンストール | 19 |
| Contact Optimization の資料とヘルプ | 4 | 第 6 章 configTool | 21 |
| 第 2 章 Contact Optimization アップグ レードの計画 | 7 | IBM 技術サポートへの問い合わせ | 27 |
| 前提条件 | 7 | 特記事項 | 29 |
| すべての IBM Marketing Software 製品のアップグ レード前提条件 | 10 | 商標 | 31 |
| Contact Optimization アップグレード・ワークシー ト | 11 | プライバシー・ポリシーおよび利用条件に関する考 慮事項 | 31 |
| 第 3 章 Contact Optimization のアップ グレード | 13 | | |
| 第 4 章 Contact Optimization の構成 | 15 | | |
| Contact Optimization を手動で登録する | 15 | | |

第 1 章 アップグレードの概要

Contact Optimization のアップグレードは、Contact Optimization をアップグレードして構成するときに完了します。Contact Optimization アップグレード・ガイドには、Contact Optimization のアップグレードおよび構成に関する詳細な情報が含まれています。

アップグレード・ロードマップ・セクションを使用して、Contact Optimization アップグレード・ガイドの使用に関する幅広い理解を得てください。

アップグレード・ロードマップ

アップグレード・ロードマップを使用して、Contact Optimization のアップグレードに必要な情報を素早く見つけられます。

以下の表を使用して、Contact Optimization のアップグレードに際して完了している必要のあるタスクを確認できます。

表 1. Contact Optimization アップグレード・ロードマップ

| トピック | 情報 |
|---|--|
| 『第 1 章 アップグレードの概要』 | この章では、以下の情報が提供されます。 <ul style="list-style-type: none">• 2 ページの『インストーラーの動作』• 2 ページの『インストールのモード』• 4 ページの『Contact Optimization の資料とヘルプ』 |
| 7 ページの『第 2 章 Contact Optimization アップグレードの計画』 | この章では、以下の情報が提供されます。 <ul style="list-style-type: none">• 7 ページの『前提条件』• 10 ページの『すべての IBM Marketing Software 製品のアップグレード前提条件』• 11 ページの『Contact Optimization アップグレード・ワークシート』 |
| 13 ページの『第 3 章 Contact Optimization のアップグレード』 | この章では、Contact Optimization のアップグレード方法について説明します。 |
| 15 ページの『第 4 章 Contact Optimization の構成』 | この章では、以下の情報が提供されます。 <ul style="list-style-type: none">• 15 ページの『Contact Optimization を手動で登録する』• 15 ページの『Contact Optimization のテーブルのマッピング』• 18 ページの『Contact Optimization のインストーラーの検証』 |
| 19 ページの『第 5 章 Contact Optimization のアンインストール』 | この章では、Contact Optimization のアンインストール方法について説明します。 |

表 1. *Contact Optimization* アップグレード・ロードマップ (続き)

| トピック | 情報 |
|---------------------------|--|
| 21 ページの『第 6 章 configTool』 | この章では、 configTool ユーティリティーの使用方法について説明します。 |

インストーラーの動作

どの IBM® Marketing Software 製品をインストールまたはアップグレードする場合も、スイート・インストーラーおよび製品インストーラーを使用する必要があります。例えば *Contact Optimization* をインストールする場合は、IBM Marketing Software スイート・インストーラーおよび IBM *Contact Optimization* インストーラーを使用する必要があります。

IBM Marketing Software スイート・インストーラーおよび製品インストーラーを使用する前に、以下のガイドラインを確認してください。

- スイート・インストーラーおよび製品インストーラーは、製品のインストール先のコンピューターの同じディレクトリーにある必要があります。マスター・インストーラーが含まれるディレクトリーに複数のバージョンの製品インストーラーが存在する場合、マスター・インストーラーによってインストール・ウィザードの IBM Marketing Software 製品画面に表示されるのは、必ず製品の最新バージョンとなります。
- IBM Marketing Software 製品のインストール直後にパッチをインストールする場合は、パッチのインストーラーがスイートおよび製品のインストーラーと同じディレクトリーにあるようにしてください。
- IBM Marketing Software インストールのデフォルトの最上位ディレクトリーは /IBM/IMS (UNIX) または C:\IBM\IMS (Windows) です。ただし、このディレクトリーはインストール時に変更できます。

インストールのモード

IBM Marketing Software スイート・インストーラーは、GUI モード、コンソール・モード、またはサイレント・モード (無人モードとも呼ぶ) のいずれかのモードで実行できます。 *Contact Optimization* をインストールする際は要件に見合ったモードを選択してください。

アップグレードの場合、インストーラーを使用して、初期インストールの際に実行するのと同じ多数のタスクを実行します。

GUI モード

グラフィカル・ユーザー・インターフェースを使用して *Contact Optimization* をインストールするには、Windows の GUI モード、または UNIX の X Window System モードを使用します。

コンソール・モード

コマンド・ライン・ウィンドウを使用して *Contact Optimization* をインストールするには、コンソール・モードを使用します。

注: コンソール・モードでインストーラー画面を正しく表示するには、UTF-8 文字エンコードをサポートするように端末ソフトウェアを構成してください。ANSI などその他の文字エンコードでは、テキストが正しくレンダリングされず、一部の情報が読み取れなくなります。

サイレント・モード

Contact Optimization を複数回インストールするには、サイレント・モード (無人モード) を使用します。サイレント・モードは、インストールに応答ファイルを使用し、インストール・プロセスの間にユーザー入力を必要としません。

注: クラスター化された Web アプリケーションまたはクラスター化されたりスナー環境のアップグレード・インストールでは、サイレント・モードはサポートされていません。

サンプル応答ファイル

Contact Optimization のサイレント・インストールをセットアップするため、応答ファイルを作成する必要があります。応答ファイルを作成するには、サンプル応答ファイルを利用できます。サンプル応答ファイルは、インストーラーの ResponseFiles 圧縮アーカイブに含まれています。

次の表には、サンプル応答ファイルに関する情報が示されています。

表 2. サンプル応答ファイルの説明

| サンプル応答ファイル | 説明 |
|---|--|
| installer.properties | IBM Marketing Software マスター・インストーラーのサンプル応答ファイル。 |
| installer_product initials and product version number.properties | Contact Optimization インストーラーのサンプル応答ファイル。 例えば、installer_ucn.n.n.n.properties (ここで、n.n.n.n はバージョン番号) は、Campaign インストーラーの応答ファイルです。 |
| installer_report pack initials, product initials, and version number.properties | レポート・パック・インストーラーのサンプル応答ファイル。 例えば、installer_urpcn.n.n.n.properties (n.n.n.n はバージョン番号) は、Campaign レポート・パック・インストーラーの応答ファイルです。 |

アップグレード・インストールが失敗した場合のレジストリー・ファイルの修正

インストーラーがインストール済み製品の基本バージョンを検出できないためにインストールに失敗した場合は、ここに説明する方法でレジストリー・ファイルを修正できます。

このタスクについて

IBM Marketing Software 製品をインストールすると、`.com.zerog.registry.xml` という名前の InstallAnywhere グローバル・レジストリー・ファイルが作成されます。このレジストリー・ファイルには、このサーバー上にインストールされたすべての IBM Marketing Software 製品が、製品の機能やコンポーネントを含め、記録されます。

手順

1. `.com.zerog.registry.xml` ファイルを見つけます。

インストール先のサーバーに応じて、`.com.zerog.registry.xml` ファイルは以下のいずれかの場所にあります。

- Windows サーバーの場合、ファイルは Program Files/Zero G Registry フォルダーにあります。

Zero G Registry は隠しディレクトリーです。隠しファイルおよび隠しフォルダーを表示する設定を有効にする必要があります。

- UNIX システムの場合、ファイルは以下のいずれかのディレクトリーにあります。

- Root ユーザー - `/var/`

- 非 root ユーザー - `$HOME/`

- Mac OSX サーバーの場合、ファイルは `/library/preferences/` フォルダーにあります。

2. ファイルのバックアップ・コピーを作成します。
3. ファイルを編集して、インストール済み製品のバージョンを指しているすべてのエントリーを変更します。

例として、IBM Campaign バージョン 8.6.0.3 に対応するファイルのセクションを以下に示します。

```
<product name="Campaign" id="dd6f88e0-1ef1-11b2-accf-c518be47c366"
version=" 8.6.0.3 " copyright="2013" info_url="" support_url=""
location="<IBM_Unica_Home>\Campaign" last_modified="2013-07-25 15:34:01">
```

この場合は、`version=" 8.6.0.3 "` を指しているすべてのエントリーを基本バージョン (このケースでは 8.6.0.0) に変更します。

Contact Optimization の資料とヘルプ

Contact Optimization には、ユーザー、管理者、および開発者向けの資料とヘルプが用意されています。

以下の表は、Contact Optimization を使用し始める際の情報を見つける参考にしてください。

表 3. 準備と開始

| タスク | 資料 |
|-----------------------|-----------------------------------|
| 新機能、既知の問題、および回避策を表示する | IBM Contact Optimization リリース・ノート |

表 3. 準備と開始 (続き)

| タスク | 資料 |
|--|---|
| Contact Optimization データベースの構造について知る | Contact Optimization システム・テーブルおよびデータ・ディクショナリー |
| Contact Optimization をインストールまたはアップグレードする | 次のいずれかのガイドを参照してください。 <ul style="list-style-type: none"> • IBM Contact Optimization インストール・ガイド • IBM Contact Optimization アップグレード・ガイド |

以下の表は、Contact Optimization を構成して使用する際の情報を見つける参考にしてください。

表 4. Contact Optimization の構成と使用

| タスク | 資料 |
|---|-----------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> • Contact Optimization セッションを作成する • Contact Optimization プロセスを構成する • マーケティング・キャンペーンにおける最適化されたコンタクトを使用する | IBM Contact Optimization ユーザー・ガイド |

以下の表は、Contact Optimization を使用していて問題に直面したときにヘルプを得る際の情報を見つける参考にしてください。

表 5. ヘルプを得る

| タスク | 指示 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> • Contact Optimization のインストールにおけるエラーのトラブルシューティング • Contact Optimization のセッションにおけるエラーのトラブルシューティング • Contact Optimization のパフォーマンスを改善させる | IBM Contact Optimization トラブル・シューティングおよびチューニング・ガイド |
| オンライン・ヘルプを開く | <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ヘルプ」 > 「このページのヘルプ」を選択すると、コンテキスト・ヘルプ・トピックが開きます。 2. ヘルプ・ウィンドウの「ナビゲーションの表示」アイコンをクリックすると、ヘルプ全体が表示されます。 <p>コンテキスト依存オンライン・ヘルプを表示するには、Web アクセスが必要です。IBM Knowledge Center のオフライン資料へのローカルでのアクセスおよびインストールについて詳しくは、IBM サポートにお問い合わせください。</p> |
| PDF を入手する | <p>次のいずれかの方法を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「ヘルプ」 > 「製品資料」を選択すると、Contact Optimization PDF にアクセスできます。 • 「ヘルプ」 > 「IBM Marketing Software suite のすべての資料」を選択して、使用可能なすべての資料にアクセスします。 |

表 5. ヘルプを得る (続き)

| タスク | 指示 |
|----------------------|---|
| IBM Knowledge Center | IBM Knowledge Center にアクセスするには、「ヘルプ」>「この製品のサポート (Support for this product)」を選択します。 |
| サポートを得る | http://www.ibm.com/support から IBM サポート・ポータルにアクセスします。 |

第 2 章 Contact Optimization アップグレードの計画

現在のバージョンの Contact Optimization 固有のガイドラインを理解した後、Contact Optimization のインストールをアップグレードします。

注: 9.x より前のバージョンの Contact Optimization は Optimize という名前です。

Contact Optimization のアップグレードには次のガイドラインを使用してください。

表 6. Contact Optimization アップグレード・シナリオ

| ソース・バージョン | アップグレード・パス |
|----------------|---|
| バージョン 7.3.0 以降 | 以下の手順を実行して、Contact Optimization をバージョン 10.1 にアップグレードします。 <ol style="list-style-type: none">Contact Optimization バージョン 8.6.0 にアップグレードします。Contact Optimization 10.0 アップグレード・ガイドの説明に従って、Contact Optimization バージョン 10.0 にアップグレードします。バージョン 10.1 へのインプレース・アップグレードを実行します。 |
| バージョン 8.6.0 以降 | 以下の手順を実行して、Contact Optimization をバージョン 10.1 にアップグレードします。 <ol style="list-style-type: none">Contact Optimization 10.0 アップグレード・ガイドの説明に従って、Contact Optimization バージョン 10.0 にアップグレードします。バージョン 10.1 へのインプレース・アップグレードを実行します。 |
| バージョン 10.0.0.x | 現在のバージョンの Contact Optimization に対してインプレース・アップグレードを実行します。 |

重要: Contact Optimization と Campaign は、同じバージョン・レベルでなければなりません。例えば、Campaign をバージョン 10.1 にアップグレードしてから Contact Optimization をバージョン 10.1 にアップグレードする必要があります。

前提条件

IBM Marketing Software 製品をインストールまたはアップグレードするには、その前に、ご使用のコンピューターがすべてのソフトウェアおよびハードウェアの前提条件を満たしていることを確認する必要があります。

システム要件

システム要件について詳しくは、「推奨ソフトウェア環境および最小システム要件」ガイドを参照してください。

Opportunity Detect が DB2 データベースに接続するためには、DB2 インストール環境のクライアント・マシンの `/home/db2inst1/include` ディレクトリーにインストール・ヘッダー・ファイルが含まれている必要があります。ヘッダー・ファイルをインストール環境に含めるには、DB2 のインストール時に「カスタム」インストール・オプションを選択し、「基本アプリケーション開発ツール」フィーチャーを選択します。

DB2 要件

Opportunity Detect が DB2 データベースに接続するためには、DB2 インストール環境のクライアント・マシンの `home/db2inst1/include` ディレクトリーにインストール・ヘッダー・ファイルが含まれている必要があります。ヘッダー・ファイルをインストール環境に含めるには、DB2 のインストール時に「カスタム」インストール・オプションを選択し、「基本アプリケーション開発ツール」フィーチャーを選択します。

ネットワーク・ドメイン要件

スイートとしてインストールされる IBM Marketing Software 製品は同じネットワーク・ドメインにインストールする必要があります。これは、クロスサイト・スク립ティングで生じ得るセキュリティー・リスクを制限することを目的としたブラウザ制限に準拠するためです。

重要: 最高のパフォーマンスを得るには、Contact Optimization を専用のシステムにインストールし、そこに他の IBM Marketing Software 製品をインストールしないでください。Contact Optimization は、計算およびデータ処理リソースを大量に必要とします。Contact Optimization を専用環境で作動させると、パフォーマンス調整において最大の制御性と柔軟性を得られます。

JVM 要件

スイート内の IBM Marketing Software アプリケーションは、専用の Java™ 仮想マシン (JVM) 上に配置する必要があります。IBM Marketing Software 製品は、Web アプリケーション・サーバーが使用する JVM をカスタマイズします。JVM に関連するエラーが発生する場合、IBM Marketing Software 製品専用の Oracle WebLogic または WebSphere®ドメインを作成する必要があります。

知識要件

IBM Marketing Software 製品をインストールするには、製品をインストールする環境全般に関する知識が必要です。この知識には、オペレーティング・システム、データベース、および Web アプリケーション・サーバーに関する知識が含まれます。

インターネット・ブラウザ設定

ご使用のインターネット・ブラウザが、以下の設定に準拠していることを確認してください。

- ブラウザーは Web ページをキャッシュに入れてはなりません。
- ブラウザーはポップアップ・ウィンドウをブロックしてはなりません。

アクセス権限

インストール作業を完了するため、以下のネットワーク権限を保持していることを確認してください。

- 必要なすべてのデータベースに対する管理アクセス権限
- Web アプリケーション・サーバーおよび IBM Marketing Software コンポーネントを実行するために使用するオペレーティング・システム・アカウントの関連ディレクトリーおよびサブディレクトリーに対する読み取りおよび書き込みアクセス権限
- 編集する必要があるすべてのファイルに対する書き込み権限。
- インストール・ディレクトリーやアップグレード時のバックアップ・ディレクトリーなどの、ファイルを保存する必要があるすべてのディレクトリーに対する書き込み権限。
- インストーラーを実行するための適切な読み取り、書き込み、および実行の権限

Web アプリケーション・サーバーの管理パスワードを保持していることを確認してください。

UNIX の場合、IBM 製品のすべてのインストーラー・ファイルはフル権限 (例えば、`rwxr-xr-x`) が必要です。

JAVA_HOME 環境変数

IBM Marketing Software 製品をインストールするコンピューターに **JAVA_HOME** 環境変数が定義されている場合、サポートされる JRE のバージョンがこの変数で指定されていることを確認してください。システム要件について詳しくは、「*IBM Marketing Software* 推奨ソフトウェア環境および最小システム要件」ガイドを参照してください。

JAVA_HOME 環境変数が正しくない JRE を指している場合、IBM Marketing Software インストーラーを実行する前に、その **JAVA_HOME** 変数をクリアする必要があります。

以下のいずれかの方法により、**JAVA_HOME** 環境変数をクリアできます。

- Windows: コマンド・ウィンドウで、**set JAVA_HOME=** (空のままにする) と入力して、**Enter** キーを押します。
- UNIX: 端末で、**export JAVA_HOME=** (空のままにする) と入力して、**Enter** キーを押します。

IBM Marketing Software インストーラーによって、IBM Marketing Software インストール済み環境の最上位ディレクトリーに JRE がインストールされます。個々の IBM Marketing Software アプリケーション・インストーラーでは、JRE はインストールされません。その代わりに、IBM Marketing Software インストーラーによってインストールされる JRE の場所が指示されます。すべてのインストールが完了したあと、環境変数を再設定できます。

サポートされる JRE について詳しくは、「*IBM マーケティング・ソフトウェア製品の推奨されるソフトウェア環境と最小システム要件*」ガイドを参照してください。

Marketing Platform の要件

IBM Marketing Software 製品をインストールまたはアップグレードする前に、Marketing Platform をインストールまたはアップグレードして構成する必要があります。一緒に機能する製品のグループごとに、Marketing Platform を 1 回だけインストールまたはアップグレードする必要があります。各製品インストーラーは、必要な製品がインストールされているかどうかを検査します。ご使用の製品またはバージョンが Marketing Platform に登録されていない場合、インストールを続行する前に、Marketing Platform をインストールまたはアップグレードすることを求めるメッセージが表示されます。「設定」>「構成」ページでプロパティを設定するには、その前に、Marketing Platform が配置済みであり、稼働している必要があります。

Campaign の要件

Contact Optimization をインストールまたはアップグレードする前に、Campaign をインストールまたはアップグレードして構成する必要があります。

注: UNIX にインストールする場合、Web アプリケーション・サーバーで、**Djava.awt.headless** プロパティを true に設定しなければならないことがあります。この設定は、Contact Optimization レポートを表示できない場合にのみ必要です。詳しくは、「*IBM Campaign* インストール・ガイド」を参照してください。

Contact Optimization は Campaign システム・テーブル・データ・ソースを使用するので、Contact Optimization 用に追加のデータ・ソースを準備する必要はありません。

すべての IBM Marketing Software 製品のアップグレード前提条件

シームレスなアップグレード体験を確実にするために、Contact Optimization をアップグレードする前に、権限、オペレーティング・システム、および正しい知識に関するすべての要件を満たしてください。

以前のインストールで生成された応答ファイルの削除

バージョン 8.6.0 より前からアップグレードする場合、以前の Contact Optimization インストールで生成された応答ファイルを削除する必要があります。古い応答ファイルは 8.6.0 以降のインストーラーとは互換性がありません。

古い応答ファイルを削除しないと、インストーラーを実行する際にインストーラー・フィールドに間違ったデータが事前に取り込まれてしまったり、インストーラーによって一部のファイルがインストールできなかったり、構成ステップがスキップされてしまったりする可能性があります。

IBM 応答ファイルの名前は `installer.properties` です。

それぞれの製品の応答ファイルの名前は、`installer_productversion.properties` です。

インストーラーは、インストール時に指定したディレクトリーに応答ファイルを作成します。デフォルトの場所はユーザーのホーム・ディレクトリーです。

UNIX のユーザー・アカウント要件

UNIX の場合、インストーラーが以前のインストールの検出に失敗していない限り、製品をインストールしたユーザー・アカウントでアップグレードを完了しなければなりません。

32 ビット・バージョンから 64 ビット・バージョンへのアップグレード

Contact Optimization を 32 ビット・バージョンから 64 ビット・バージョンに移行する場合、以下のタスクを完了していることを確認してください。

- 製品データ・ソースのデータベース・クライアント・ライブラリーが 64 ビットであることを確認する。
- すべての関連ライブラリー・パス (例えば開始スクリプトや環境スクリプト) が、64 ビット・バージョンのデータベース・ドライバーを正しく参照していることを確認する。

Contact Optimization アップグレード・ワークシート

Contact Optimization アップグレード・ワークシートを使用して、Contact Optimization のアップグレード・システム・テーブルおよび Contact Optimization のアップグレードに必要なその他の IBM Marketing Software 製品を含むデータベースに関する情報を収集します。

Campaign データベース情報

Contact Optimization のインストール・ウィザードでは、Campaign システム・テーブル・データベースにアクセスして Contact Optimization テーブルを作成する必要があります。インストーラーがデータベース表をセットアップして Contact Optimization を適切に構成できるようにするには、Campaign インストールに関する以下の情報を収集しなければなりません。

表 7. データベース情報ワークシート

| データベース情報 | メモ |
|--|----|
| Campaign データベースが Unicode で構成されているかどうか確認してください | |
| Campaign データベース・タイプ データベース・タイプが DB2® で UNIX システム上にインストールされている場合には、DB2 インスタンス・パスを記します。 データベース・タイプが Oracle の場合、Oracle ホーム・ディレクトリー・パスを記します。 | |
| Campaign データベース・ホスト名 | |
| Campaign データベース・ポート | |
| Campaign データベース名 | |
| Campaign データベース・アカウントのユーザー名 | |

表 7. データベース情報ワークシート (続き)

| データベース情報 | メモ |
|---|----|
| Campaign データベース・アカウントのパスワード | |
| Campaign データベースの JDBC 接続 URL 指定された値に基づいてインストーラーは接続 URL を提供しますが、その URL が正しいことを確認してください。 例えば、SQL サーバーの場合、JDBC 接続 URL の形式は以下のとおりです。 <code>jdbc:sqlserver://your_db_host:your_db_port;databaseName=your_db_name</code> | |
| Campaign Web アプリケーション・サーバーがインストールされているシステムの名前。 | |
| Campaign アプリケーション・サーバーが listen するポート。 SSL を実装する予定の場合、SSL ポートについて情報を取得します。 | |
| 配置システムのネットワーク・ドメイン。 | |

注: Contact Optimization と Campaign が別々のシステムにインストールされている場合、Campaign インストール済み環境の Campaign ディレクトリーを Contact Optimization をホストするシステムにネットワーク・ドライブとしてマウントする必要はありません。CAMPAIGN_HOME が ACOServer.bat/.sh の OPTIMIZE_HOME を指すようにしてください。この変数は互換性を維持するために保持されており、OPTIMIZE_HOME に設定されます。この変数の値は変更しないでください。

Marketing Platform データベース情報

Contact Optimization のインストール・ウィザードでは、Marketing Platform システム・テーブル・データベースにアクセスして製品を登録できます。

IBM Marketing Software インストーラーを実行するたびに、Marketing Platform システム・テーブル・データベースの以下のデータベース接続情報を入力する必要があります。

- データベース・タイプ
- データベース・ホスト名
- データベース・ポート
- データベース名
- データベース・アカウントのユーザー名とパスワード
- Marketing Platform データベースの JDBC 接続 URL

指定された値に基づいてインストーラーは接続 URL を提供します。ただし、その URL が正しいことを確認してください。

第 3 章 Contact Optimization のアップグレード

既存の Contact Optimization を上書きして、Contact Optimization をアップグレードできます。

このタスクについて

Contact Optimization ユーザーのための重要な注意事項

Campaign と Contact Optimization を一緒にアップグレードする必要があります。Campaign と Contact Optimization を一緒にアップグレードしない場合、Contact Optimization リスナーを手動で停止させなければなりません。

IBM Contact Optimization リスナーと **IBM Campaign** を別々のマシンにインストールしているユーザーのための重要な注意事項:

IBM Contact Optimization リスナーと IBM Campaign 分析サーバーが別々のマシンにインストールされている場合に、Contact Optimization を非 root ユーザーの権限でアップグレードするには、そのユーザーを Sudo リストに追加する必要があります。そうしないと、GSKIT コンポーネントが正常にインストールされません。

対話式インストールの処理中に、非 root ユーザーの SUDO パスワードを入力するプロンプトが出されます。SUDO パスワードを入力すると、インストールが実行され、GSKIT Components が正常にインストールされます。

サイレント・モード・インストールを実行する場合に、SUDO パスワードの入力プロンプトをシステムから出さないようにするには、SUDO ユーザーに NOPASSWD を設定します。SUDO ユーザーに NOPASSWD を設定しないと、SUDO パスワードの入力プロンプトが出されます。

ただし、ユーザーが SUDO リストに含まれていない場合でも、Contact Optimization インストーラーは SUDO パスワードの入力プロンプトを出します。GSKIT コンポーネントはインストールされません。この場合、ユーザーは root ユーザーの権限で **\$Optimize_Home/bin/IBM_Campaign_Crypto.bin** ユーティリティーを実行して、GSKIT を手動でインストールする必要があります。

Windows オペレーティング・システムでは、インストール・ユーザーが管理者でない場合は、管理ユーザー役割を使用して **\$Optimize_Home/bin/IBM_Campaign_Crypto.exe** ユーティリティーを手動で実行して、GSKIT コンポーネントをインストールする必要があります。GSKIT インストールに関するログは、ContactOptimization_stdout.log ファイルで確認できます。

Contact Optimization をアップグレードするには、以下の手順に従ってください。

手順

1. Contact Optimization リスナーを停止します。Contact Optimization リスナーを停止する前に、**ACOServer** スクリプトに **CAMPAIGN_HOME** へのパスを正しく設定していることを確認してください。

ACOServer スクリプトを使用して、Contact Optimization リスナーを停止します。**ACOServer** スクリプトは、Contact Optimization インストールの bin ディレクトリーにあります。

Contact Optimization リスナーを停止するには、以下のコマンドを実行します。

- Windows の場合: **ACOServer.bat stop**
 - UNIX の場合: **./ACOServer.sh stop**
2. Campaign および Contact Optimization のホーム・ディレクトリーのバックアップをとります。
 3. Campaign および Marketing Platform システム・テーブルのバックアップをとります。
 4. IBM Marketing Software インストーラーを実行して **Contact Optimization** を選択します。

重要: 以前の Contact Optimization インストール・ディレクトリーを選択します。例えば、C:¥IBM¥ContactOptimization。

プロンプトが表示されたら、「自動データベース・セットアップ」を選択します。「手動データベース・セットアップ」を選択する場合、適切なデータベースに対して Contact Optimization 移行 SQL スクリプトを実行して、Contact Optimization システム・テーブルを手動で作成して、これにデータを読み込む必要があります。

5. Campaign が配置されている Web アプリケーション・サーバーが実行されていない場合は始動します。
6. Contact Optimization リスナーを始動します。

ACOServer スクリプトを使用して、Contact Optimization リスナーを始動します。

Contact Optimization リスナーを始動するには、以下のコマンドを実行します。

- Windows の場合: **ACOServer.bat start**
 - UNIX の場合: **./ACOServer.sh start**
7. セッション・レベルの拡張設定を使用しているすべての Contact Optimization セッションで、以下のステップを実行します。
 - a. Contact Optimization セッションのセッション・レベル拡張設定を編集します。
 - b. セッション・レベル設定を保存します。

設定を保存することにより、現行の Contact Optimization セッションのセッション・レベル拡張設定がアップグレード中に確実に保持されます。拡張設定を保存しない場合、以下のプロパティーが False に設定されているかのように、または True に設定されているかのように振る舞う可能性があります。

- **ContinueOnGenerationLoopError**
- 最大キャパシティ消費を有効にする
- セッション・テーブル統計を更新する

第 4 章 Contact Optimization の構成

Contact Optimization には、独立型の Web アプリケーションはありません。Campaign をインストールし、インストール済み環境を構成、配置、検証したら、Contact Optimization を構成してください。

Contact Optimization を手動で登録する

Contact Optimization を Marketing Platform に登録すると、メニュー項目をインポートしたり構成プロパティーを設定したりできます。Contact Optimization インストーラーがインストール・プロセス時に Marketing Platform システム・テーブルにアクセスできない場合は、**configTool** ユーティリティーを実行して手動で Contact Optimization を登録する必要があります。

このタスクについて

configTool ユーティリティーをファイルの数と同じ回数実行します。**configTool** ユーティリティーは、Marketing Platform インストール済み環境の下の `tools/bin` ディレクトリーにあります。

ガイドラインとして以下のサンプル・コマンドを使用して手動で Contact Optimization を登録します。

- `configTool -i -p "Affinium|suite|uiNavigation|mainMenu|Campaign" -f "full_path_to_optimize_installation_directory%conf%optimize_navigation.xml"`
- `configTool -v -i -o -p "Affinium|Campaign|about|components" -f "full_path_to_optimize_installation_directory%conf%optimize_subcomponent_version.xml"`

すべての Contact Optimization 構成プロパティーは Campaign に組み込まれているので、構成プロパティーを登録する必要はありません。

Contact Optimization のテーブルのマッピング

Contact Optimization システム・テーブル、コンタクト履歴テーブル、およびセグメント・メンバーシップ・テーブルを Campaign テーブルにマッピングすることで、Contact Optimization と Campaign の間でデータを交換することができます。

このタスクについて

注: 戦略的セグメントで使用する Campaign 内のセグメント・メンバーシップ・システム・テーブルのマッピングはオプションです。オーディエンスのセグメント・メンバーシップ・システム・テーブルをマッピングするのは、戦略的セグメントを使用するフローチャートまたは Contact Optimization セッションでオーディエンスを使用する場合だけにしてください。

Campaign のシステム・テーブルのマッピングについて詳しくは、「*IBM Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

以下の手順を実行して、Contact Optimization のテーブルのマッピングを行います。

手順

1. すべてのシステム・テーブルをマッピングします。
2. すべてのコンタクト履歴テーブルをマッピングします。

Campaign 構成内の各オーディエンス・レベルにコンタクト履歴テーブルがあることを確認します。コンタクト履歴テーブルそれぞれをマッピングする必要があります。追加のコンタクト履歴テーブルについて詳しくは、「*IBM Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

3. オプション: 戦略的セグメントを使用する Contact Optimization セッション内で使用されるオーディエンスごとに、オーディエンスのセグメント・メンバーシップ・システム・テーブルを、セグメント・メンバーを定義するデータベース表にマッピングします。

戦略的セグメントを使用する場合の要件は以下の通りです。

戦略的セグメントを使用する予定の場合、Campaign 構成の各オーディエンス・レベルに対してセグメント・メンバーシップ・テーブルがあることを確認してください。それぞれのセグメント・メンバーシップ・テーブルをマッピングする必要があります。

オーディエンス・セグメント・メンバーシップ・テーブルに 2 つのインデックスを作成します。最初のインデックスは SegmentID に、2 番目のインデックスはオーディエンス・レベル列に作成します。出荷時の UA_SegMembership テーブルは、CustomerID と SegmentID にインデックスが設定されています。

システム・テーブルと戦略的セグメントについて詳しくは、「*IBM Campaign 管理者ガイド*」を参照してください。

Contact Optimization システム・テーブル・マッピングのリファレンス

Contact Optimization を Campaign と統合するには、すべての Contact Optimization システム・テーブルを Campaign テーブルにマッピングします。

Campaign の Contact Optimization テーブルをマッピングすることで、Contact Optimization と Campaign の間でデータを交換することができます。すべての Contact Optimization システム・テーブル、コンタクト履歴テーブル、およびセグメント・メンバーシップ・テーブルを Campaign テーブルにマッピングします。

以下の表を参考にして、Contact Optimization システム・テーブルと対応するデータベース表に関する情報を収集します。

表 8. Contact Optimization システム・テーブル・マッピング

| | |
|--------------------------------|----------------------|
| Contact Optimization システム・テーブル | データベース表 |
| Optimize セッション・テーブル | UACO_OptSession |
| Optimize プロセス・テーブル | UACO_OptimizeProcess |
| Optimize 実行履歴テーブル | UACO_SesnRunHist |
| Optimize セッション・セグメント・テーブル | UACO_SesnSegment |
| Optimize オファー・セグメント・テーブル | UACO_OfferSeg |
| Optimize セッション・オファー・テーブル | UACO_SesnOffer |
| Optimize ルール・テーブル | UACO_Rule |
| Optimize 例外ルール・テーブル | UACO_RException |
| Optimize 例外ルール制約テーブル | UACO_RExConstraint |
| Optimize ルール制約テーブル | UACO_RConstraint |
| Optimize ルール・オファー・リスト・テーブル | UACO_ROfferList |
| Optimize ルール・オファー・テーブル | UACO_ROffer |
| Optimize ルール・セグメント・テーブル | UACO_RSegment |
| Optimize 推奨コンタクト・ベース・テーブル | UACO_PCTBase |
| Optimize 推奨属性ベース・テーブル | UACO_POABase |
| Optimize 最適化済みコンタクト・ベース・テーブル | UACO_OCTBase |

Contact Optimization コンタクト履歴テーブル・マッピングのリリース

Contact Optimization を Campaign と統合するには、すべての Contact Optimization コンタクト履歴テーブルを Campaign テーブルにマッピングします。

以下の表は、Contact Optimization コンタクト履歴テーブルとそれらに対応するデータベース表をリストしています。

表 9. Contact Optimization コンタクト履歴テーブル・マッピング

| | |
|-----------------|-------------------|
| コンタクト履歴テーブル | データベース表 |
| 顧客コンタクト履歴テーブル | UA_ContactHistory |
| 顧客詳細コンタクト履歴テーブル | UA_DtlContactHist |

追加するオーディエンス・レベル・テーブルの名前は、Contact Optimization の構成ごとに固有です。

SSL 環境で必要な追加の構成

10.0 リリース以降では、IBM Marketing Software 製品の SSL for C++ コンポーネントは、OpenSSL ではなく GSKit によってサポートされます。

10.0 より前のバージョンの IBM Marketing Software 製品で C++ コンポーネント (Campaign リスナーや Contact Optimization サーバーなど) に対して SSL を実装した場合、それらのコンポーネントで次の作業を行う必要があります。

- GSKit 鍵ストア (.kdb ファイル) を作成する。
- GSKit を使用して証明書を新規作成する。
- この GSKit 鍵ストアに新しい証明書 (および、ある場合はルート証明書) を追加する。
- 新規証明書を使用するように環境を構成する。

詳しくは、「IBM Marketing Platform 管理者ガイド」の第 14 章『一方向 SSL の実装 (Implementation of one-way SSL)』を参照してください。

Contact Optimization のインストールの検証

Contact Optimization が正しくインストールされている場合、Campaign バッチ・フローチャートをビルドする際に Campaign で Optimize プロセスを使用できるはずです。これを確認するには、IBM Marketing Software にログインして、「Campaign」 > 「Contact Optimizations」にアクセスできることを確認します。

始める前に

注: Contact Optimization が正しくインストールまたはアップグレードされていることを確認する前に、**Affinium|Campaign|acoInstalled** プロパティが true に設定されていることを確認してください。**Affinium|Campaign|acoInstalled** が false に設定されていると、Contact Optimization がインストールされていないことを示すエラー・メッセージが出ます。

このタスクについて

Contact Optimization テーブルを Campaign テーブルにマッピングした後、IBM Marketing Software コンソールからログアウトしてからログインしないと「Campaign」 > 「Contact Optimizations」が表示されないことがあります。

以下の手順を実行して、Contact Optimization のインストールを検証します。

手順

1. IBM Marketing Software コンソールにログインします。
2. メニューから「Campaign」 > 「Contact Optimizations」を選択します。「Contact Optimization セッション一覧」ページが表示されます。Contact Optimization セッションが表示され、管理できるようになっていることを確認します。

第 5 章 Contact Optimization のアンインストール

Contact Optimization アンインストーラーを実行して、Contact Optimization をアンインストールします。Contact Optimization アンインストーラーを実行すると、インストール・プロセスの間に作成されたファイルが削除されます。例えば、構成ファイル、インストーラーの登録情報、およびユーザー・データなどのファイルがコンピューターから削除されます。

このタスクについて

IBM Marketing Software 製品をインストールすると、アンインストーラーが `Uninstall_Product` ディレクトリーに組み込まれます。ここで、`Product` は IBM 製品の名前です。Windows の場合、「コントロール パネル」の「プログラムの追加と削除」リストにも項目が追加されます。

アンインストーラーを実行するのではなくインストール・ディレクトリー内のファイルを手動で削除すると、同じ場所に IBM 製品を後ほど再インストールする場合にインストール結果が不完全なものになる可能性があります。製品アンインストールの後でも、データベースは削除されません。アンインストーラーは、インストール中に作成されたデフォルト・ファイルのみを削除します。インストール後に作成または生成されたファイルは、削除されません。

注: UNIX の場合、Contact Optimization をインストールしたユーザー・アカウントを使用して、アンインストーラーを実行する必要があります。

手順

1. Contact Optimization リスナーを停止します。
2. システム・テーブル・データベースから Contact Optimization テーブルを削除するには、Contact Optimization インストール済み環境の `ddl` ディレクトリーで、`aco_systab_drop.sql` スクリプトを実行します。製品インストール・ディレクトリーに `ddl` ディレクトリーが既存である場合、その `ddl` ディレクトリーに用意されているスクリプトを実行して、システム・テーブル・データベースからテーブルを削除します。
3. 以下のいずれかのステップを実行して Contact Optimization をアンインストールします。
 - `Uninstall_Product` ディレクトリー内にある Contact Optimization アンインストーラーをクリックします。アンインストーラーは、Contact Optimization をインストールする際に使用したモードで実行します。
 - コンソール・モードを使用して Contact Optimization をアンインストールする場合は、コマンド・ライン・ウィンドウで、アンインストーラーが存在するディレクトリーにナビゲートして、次のコマンドを実行します。

Uninstall_Product -i console

- サイレント・モードを使用して Contact Optimization をアンインストールする場合は、コマンド・ライン・ウィンドウで、アンインストーラーが存在するディレクトリーにナビゲートして、次のコマンドを実行します。

Uninstall_Product -i silent

サイレント・モードを使用して Contact Optimization をアンインストールする場合、アンインストール・プロセスでは、ユーザーとの対話用のダイアログが表示されません。

注: オプションを指定せずに Contact Optimization をアンインストールすると、Contact Optimization アンインストーラーは Contact Optimization のインストール時に使用されたモードで実行されます。

第 6 章 configTool

「構成」ページのプロパティと値は、Marketing Platform システム・テーブルに格納されます。configTool ユーティリティを使用して、構成設定をシステム・テーブルにインポートしたり、システム・テーブルからエクスポートしたりできます。

configTool を使用する状況

configTool は、次のような場合に使用することがあります。

- Campaign と共に提供されるパーティションおよびデータ・ソース・テンプレートをインポートする場合。その後、それを「構成」ページで変更したり複製したりできます。
- 製品インストーラーによって自動的にプロパティをデータベースに追加できないときに IBM Marketing Software 製品を登録 (構成プロパティをインポート) する場合。
- バックアップ用に XML バージョンの構成設定をエクスポートする、あるいは IBM Marketing Software の別のインストール済み環境にインポートする場合。
- 「カテゴリの削除」リンクのないカテゴリを削除する場合。これを行うには、configTool を使用して構成をエクスポートし、カテゴリを作成する XML を手動で削除し、configTool を使用して、編集された XML をインポートします。

重要: このユーティリティは、構成プロパティおよびそれらの値が含まれる Marketing Platform システム・テーブル・データベースの `usm_configuration` および `usm_configuration_values` テーブルを変更します。最適な結果を得るには、これらのテーブルのバックアップ・コピーを作成するか、configTool を使って既存の構成をエクスポートした結果のファイルをバックアップしてください。こうすると、configTool を使ってインポートするときにエラーが発生した場合でも、構成を復元することが可能です。

構文

```
configTool -d -p "elementPath" [-o]
```

```
configTool -i -p "parent ElementPath" -f importFile [-o]
```

```
configTool -x -p "elementPath" -f exportFile
```

```
configTool -vp -p "elementPath" -f importFile [-d]
```

```
configTool -r productName -f registrationFile [-o] configTool -u  
productName
```

コマンド

```
-d -p "elementPath" [o]
```

構成プロパティ階層のパスを指定して、構成プロパティとその設定を削除します。

エレメント・パスには、カテゴリおよびプロパティの内部名が使用されている必要があります。それらを得るには、「構成」ページの目的のカテゴリまたはプロパティを選択して、右のペインにある括弧内に示されているパスを確認します。構成プロパティの階層のパスを | 文字を使用して区切り、パスを二重引用符で囲みます。

次のことに注意してください。

- このコマンドで削除できるのは、アプリケーション内のカテゴリおよびプロパティのみで、アプリケーション全体は削除できません。アプリケーション全体を登録解除するには、`-u` コマンドを使用します。
- 「構成」ページに「カテゴリの削除」リンクのないカテゴリを削除するには、`-o` オプションを使用します。

`-d` を指定した `-vp` コマンドを使用する場合、`configTool` はユーザーが指定するパスにあるすべての下位ノードを削除します (これらのノードが、ユーザーの指定する XML ファイルに含まれていない場合)。

`-i -p "parentElementPath" -f importFile [o]`

指定された XML ファイルから構成プロパティとその設定をインポートします。

インポートを行うには、カテゴリのインポート先とする親エレメントへのパスを指定します。`configTool` ユーティリティは、パスに指定するカテゴリの下にプロパティをインポートします。

最上位の下の任意のレベルにカテゴリを追加できますが、最上位カテゴリと同じレベルにカテゴリを追加することはできません。

親エレメント・パスには、カテゴリおよびプロパティの内部名が使用されている必要があります。それらを得るには、「構成」ページの必要なカテゴリまたはプロパティを選択して、右のペインにある括弧内に示されたパスを確認します。構成プロパティの階層のパスを | 文字を使用して区切り、パスを二重引用符で囲みます。

`tools/bin` ディレクトリーからの相対的なインポート・ファイル・ロケーションを指定するか、絶対ディレクトリー・パスを指定することができます。相対パスを指定する、あるいはパスを指定しない場合、`configTool` はまず `tools/bin` ディレクトリーから相対的な位置にあるファイルを探します。

デフォルトでは、このコマンドは既存のカテゴリを上書きしませんが、`-o` オプションを使用すると上書きを強制することができます。

`-x -p "elementPath" -f exportFile`

構成プロパティおよびその設定を、指定した名前の XML ファイルにエクスポートします。

すべての構成プロパティをエクスポートするか、構成プロパティ階層のパスを指定することで特定の 카테고리のみをエクスポートします。

エレメント・パスには、カテゴリおよびプロパティの内部名が使用されている必要があります。それらを得るには、「構成」ページの目的のカテゴリまたはプロパティを選択して右側のペインにある括弧内に示されたパスを確認します。構成プロパティの階層のパスを | 文字を使用して区切り、パスを二重引用符で囲みます。

現行ディレクトリーから相対のエクスポート・ファイル・ロケーションを指定するか、絶対ディレクトリー・パスを指定することができます。ファイル指定に区切り記号 (UNIX の場合は /、Windows の場合は \ または ¥) が含まれていない場合、configTool はファイルを Marketing Platform インストール済み環境の tools/bin ディレクトリーの下に作成します。xml 拡張子を指定しないと、configTool によって追加されます。

-vp -p "elementPath" -f importFile [-d]

このコマンドは、主に手動アップグレードにおける構成プロパティのインポートに使用されます。新しい構成プロパティが含まれるフィックスパックを適用し、その後にアップグレードする場合、手動アップグレード・プロセスの一部として構成ファイルをインポートすると、フィックスパックを適用したときに設定された値がオーバーライドされる場合があります。-vp コマンドを使用すると、インポートを行っても、それ以前に設定された構成値はオーバーライドされません。

重要: configTool ユーティリティーを -vp オプションを指定して使用したら、変更が適用されるように、Marketing Platform がデプロイされている Web アプリケーション・サーバーを再始動する必要があります。

-d を指定した -vp コマンドを使用する場合、configTool はユーザーが指定するパスにあるすべての下位ノードを削除します (これらのノードが、ユーザーの指定する XML ファイルに含まれていない場合)。

-r productName -f registrationFile

アプリケーションを登録します。登録ファイルのロケーションは、tools/bin ディレクトリーからの相対パスで指定することも、絶対パスで指定することもできます。デフォルトでは、このコマンドは既存の構成を上書きしませんが、-o オプションを使用すると上書きを強制することができます。productName パラメーターは、上記に示されている名前のいずれかであることが必要です。

次のことに注意してください。

- -r コマンドを使用する場合、登録ファイルには XML 内の最初のタグとして <application> がある必要があります。

Marketing Platform データベースに構成プロパティを挿入するために使用できる他のファイルが、製品と一緒に提供されることがあります。これらのファイルには、-i コマンドを使用します。最初のタグとして <application> タグのあるファイルのみを -r コマンドと共に使用できます。

- Marketing Platform 用の登録ファイルは Manager_config.xml という名前で、最初のタグは <Suite> です。このファイルを新しいインストールに登録するには、populateDb ユーティリティを使用するか、Marketing Platform インストーラーを再実行します（「IBM Marketing Platform インストール・ガイド」を参照してください）。
- 最初のインストールの後、Marketing Platform 以外の製品を再登録するには、configTool を -r コマンドおよび -o を指定して実行して、既存のプロパティを上書きします。

configTool ユーティリティは、製品の登録または登録解除を行うコマンドのパラメーターとして製品名を使用します。IBM Marketing Software の 8.5.0 リリースにより、製品名の多くが変更されています。ただし、configTool が認識する名前は変更されていません。configTool で使用できる有効な製品名を、現在の製品名とともに以下にリストします。

表 10. configTool 登録および登録解除で使用する製品名

| 製品名 | configTool で使用される名前 |
|---|---------------------|
| Marketing Platform | Manager |
| Campaign | Campaign |
| Distributed Marketing | Collaborate |
| eMessage | emessage |
| Interact | interact |
| Contact Optimization | Optimize |
| Marketing Operations | Plan |
| Opportunity Detect | Detect |
| IBM SPSS® Modeler Advantage Enterprise Marketing Management Edition | SPSS |
| Digital Analytics | Coremetrics |

-u productName

productName によって指定されるアプリケーションを登録解除します。製品カテゴリにパスを含める必要はありません。製品名は必須で、そのみで十分です。この処理は、製品のすべてのプロパティおよび構成設定を削除します。

オプション

-o

-i または -r と共に使用すると、既存のカテゴリまたは製品登録（ノード）を上書きします。

-d と共に使用すると、「構成」ページに「カテゴリの削除」リンクがないカテゴリ（ノード）を削除することができます。

例

- Marketing Platform インストール済み環境の下の conf ディレクトリーの Product_config.xml という名前のファイルから構成設定をインポートします。

```
configTool -i -p "Affinium" -f Product_config.xml
```

- 提供された Campaign データ・ソース・テンプレートをデフォルトの Campaign パーティション partition1 にインポートします。この例では、Oracle データ・ソース・テンプレート OracleTemplate.xml が Marketing Platform インストールの tools/bin ディレクトリーにあることを前提としています。

```
configTool -i -p "Affinium|Campaign|partitions|partition1|dataSources"  
-f OracleTemplate.xml
```

- すべての構成設定を D:%backups ディレクトリーの myConfig.xml という名前のファイルにエクスポートします。

```
configTool -x -f D:%backups%myConfig.xml
```

- 既存の Campaign パーティション (データ・ソース・エントリーを含む) をエクスポートし、それを partitionTemplate.xml という名前のファイルに保存し、それを Marketing Platform インストール済み環境の下のデフォルトの tools/bin ディレクトリーに保存します。

```
configTool -x -p "Affinium|Campaign|partitions|partition1" -f  
partitionTemplate.xml
```

- Marketing Platform インストール済み環境の下のデフォルトの tools/bin ディレクトリーにある app_config.xml という名前のファイルを使用して、productName という名前のアプリケーションを手動で登録して、このアプリケーションの既存の登録を上書きするように強制します。

```
configTool -r product Name -f app_config.xml -o
```

- productName という名前のアプリケーションを登録解除します。

```
configTool -u productName
```

IBM 技術サポートへの問い合わせ

資料を参照しても解決できない問題が発生した場合は、貴社の指定サポート窓口から IBM 技術サポートに問い合わせることができます。このガイドラインを使用して、問題を効率的かつ正しく解決してください。

貴社の指定サポート窓口以外の方は、社内の IBM 管理者にお問い合わせください。

注: 技術サポートは、API スクリプトの書き込みまたは作成を行いません。API オファリングの実装で支援が必要な場合は、IBM 専門サービスにお問い合わせください。

収集する情報

IBM 技術サポートに連絡する前に、以下の情報を収集しておいてください。

- 問題の性質についての簡単な説明
- 問題の発生時に表示されるエラー・メッセージの詳細。
- 問題を再現するための詳しい手順。
- 関連するログ・ファイル、セッション・ファイル、構成ファイル、およびデータ・ファイル。
- 製品およびシステム環境に関する情報 (この情報は「システム情報」の説明から得られます)。

システム情報

IBM 技術サポートにお問い合わせいただいた際に、技術サポートではお客様の環境に関する情報をお尋ねすることがあります。

問題がログインの妨げになっていない場合、この情報の多くは「バージョン情報」ページから得られます。このページでは、インストール済みの IBM アプリケーションに関する情報が提供されています。

「バージョン情報」ページには、「ヘルプ」>「バージョン情報」を選択することによってアクセスできます。「バージョン情報」ページにアクセスできない場合、`version.txt` ファイルをご確認ください。このファイルはアプリケーションのインストール・ディレクトリの下にあります。

IBM 技術サポートの連絡先情報

IBM 技術サポートへのお問い合わせについては、IBM Product Technical Support Web サイト: (http://www.ibm.com/support/entry/portal/open_service_request) を参照してください。

注: サポート要求を入力するには、IBM アカウントを使ってログインする必要があります。このアカウントを IBM カスタマー番号にリンクする必要があります。ア

アカウントを IBM カスタマー番号に関連付ける方法については、サポート・ポータル
の「サポート・リソース」>「ライセンス付きソフトウェア・サポート」を参照し
てください。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510

東京都中央区日本橋箱崎町19番21号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Corporation
B1WA LKG1
550 King Street
Littleton, MA 01460-1250
U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができませんが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている IBM の価格は IBM が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾:

本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式

においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。これらのサンプル・プログラムは特定物として現存するままの状態を提供されるものであり、いかなる保証も提供されません。IBM は、お客様の当該サンプル・プログラムの使用から生ずるいかなる損害に対しても一切の責任を負いません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

商標

IBM、IBM ロゴおよび [ibm.com](http://www.ibm.com) は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、<http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml> をご覧ください。

プライバシー・ポリシーおよび利用条件に関する考慮事項

サービス・ソリューションとしてのソフトウェアも含めた IBM ソフトウェア製品（「ソフトウェア・オファリング」）では、製品の使用に関する情報の収集、エンド・ユーザーの使用感の向上、エンド・ユーザーとの対話またはその他の目的のために、Cookie はじめさまざまなテクノロジーを使用することがあります。Cookie とは Web サイトからお客様のブラウザーに送信できるデータで、お客様のコンピューターを識別するタグとしてそのコンピューターに保存されることがあります。多くの場合、これらの Cookie により個人情報が収集されることはありません。ご使用の「ソフトウェア・オファリング」が、これらの Cookie およびそれに類するテクノロジーを通じてお客様による個人情報の収集を可能にする場合、以下の具体的事項をご確認ください。

このソフトウェア・オファリングは、展開される構成に応じて、セッション管理、お客様の利便性の向上、または利用の追跡または機能上の目的のために、それぞれのお客様のユーザー名、およびその他の個人情報を、セッションごとの Cookie および持続的な Cookie を使用して収集する場合があります。これらの Cookie は無効にできますが、その場合、これらを有効にした場合の機能を活用することはできません。

Cookie およびこれに類するテクノロジーによる個人情報の収集は、各国の適用法令等による制限を受けます。この「ソフトウェア・オファリング」が Cookie およびさまざまなテクノロジーを使用してエンド・ユーザーから個人情報を収集する機能を提供する場合、お客様は、個人情報を収集するにあたって適用される法律、ガイドライン等を遵守する必要があります。これには、エンド・ユーザーへの通知や同意取得の要求も含まれますがそれらには限られません。

お客様は、IBM の使用にあたり、(1) IBM およびお客様のデータ収集と使用に関する方針へのリンクを含む、お客様の Web サイト利用条件（例えば、プライバシー・ポリシー）への明確なリンクを提供すること、(2) IBM がお客様に代わり閲覧者のコンピューターに、Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置す

ることを通知すること、ならびにこれらのテクノロジーの目的について説明すること、および (3) 法律で求められる範囲において、お客様または IBM が Web サイトへの閲覧者の装置に Cookie およびクリア GIF または Web ビーコンを配置する前に、閲覧者から合意を取り付けること、とします。

このような目的での Cookie を含む様々なテクノロジーの使用の詳細については、IBM の『IBM オンラインでのプライバシー・ステートメント』
<http://www.ibm.com/privacy/details/jp/ja/>) の『クッキー、ウェブ・ビーコン、その他のテクノロジー』を参照してください。



Printed in Japan

日本アイ・ビー・エム株式会社

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21